

経営比較分析表（令和3年度決算）

佐賀県 嬉野市

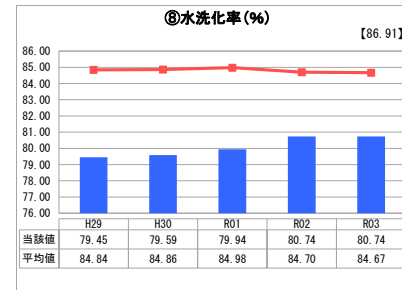
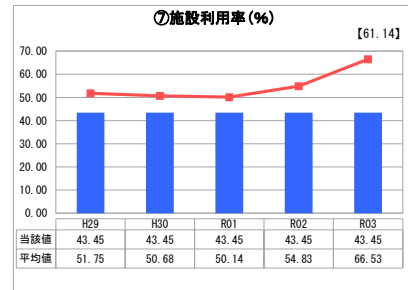
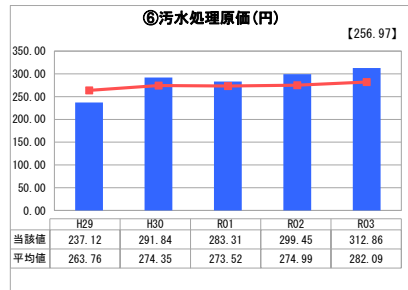
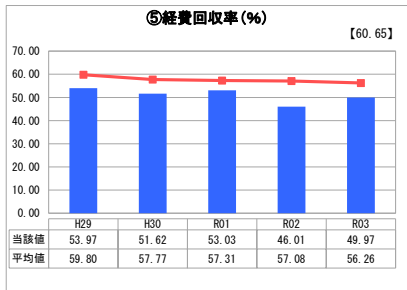
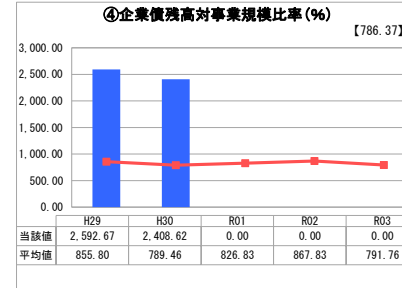
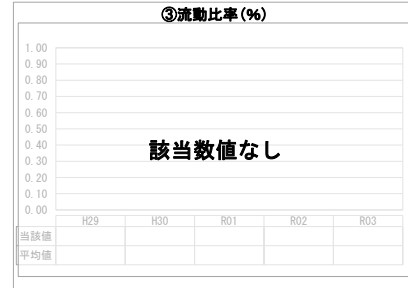
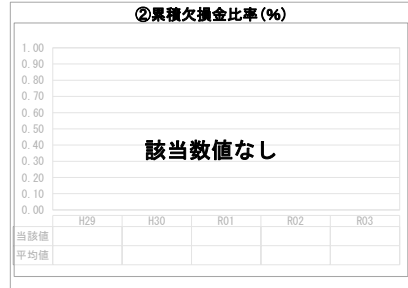
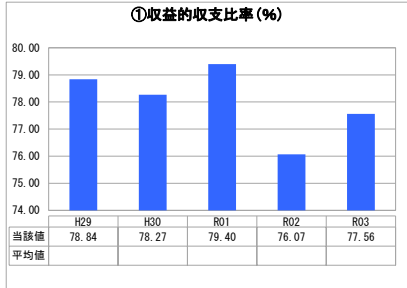
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	23.54	77.49	2,970

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,323	126.41	200.32
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,929	2.78	2,132.73

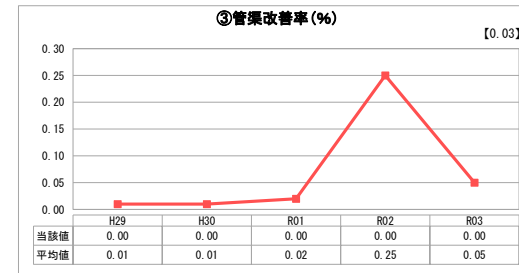
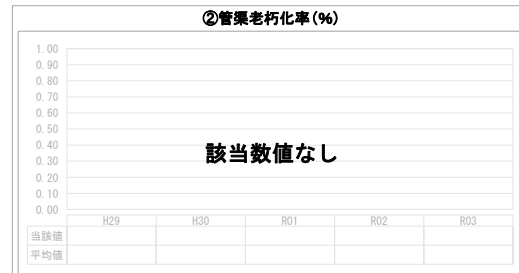
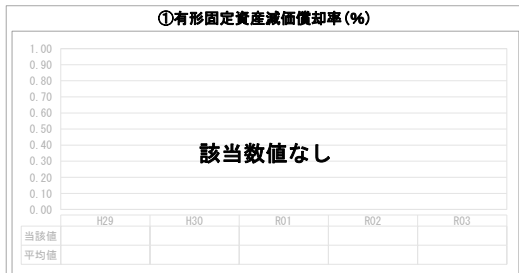
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当市の農業集落排水事業については、公共下水道事業・特定地域生活排水処理事業・個別排水処理事業の4事業とあわせて、令和4年度から地方公営企業法を適用し、1つの「下水道事業」として経営している。令和3年度は法適用前年度であったため、出納整理期間のない打切決算となっている。農業集落排水事業の整備については既に終了しており、供用開始30年を迎え、現在は設備機器の更新等維持管理を主に行っている。

①については、前年度から好転している。令和3年4月から料金体制を従量制に変更した。結果的に使用料金の増加に繋がったが、多額の一般会計繰入金に依存している状況である。

⑤については、下水道使用料の増により、打切決算で下水道使用料2か月分が反映していないものの前年度より好転したが、類似団体平均を下回っている。今後普及人口、接続率については横ばいもしくは減少が予測され、水洗化率の向上や維持管理費の削減に取り組む必要がある。

⑥については、市内に施設が4箇所あり費用が高んでいることが要因である。また、処理施設の老朽化により設備の更新費用が年々増加し汚水維持管理費が増加するため、計画的な設備投資が必要である。

⑦については、類似団体平均より低い状態にある。これは、建設当時人口が増加傾向にあり、処理能力もそれに併せて計画していたためである。

⑧については、接続戸数が伸びない為、類似団体平均値を下回っている。普及促進に努めていく。

2. 老朽化の状況について

平成9年に整備しており、管渠等の老朽化はまだ深刻ではないものの、処理場の機器については老朽化による故障や機能低下が発生している。ストックマネジメントによる機能強化事業を実施しており、今後も計画的な機器の更新を進めていく。

全体総括

令和3年4月に、農業集落排水（個別処理を含む）と公共下水道等の料金体系を統一し、人員制から従量制に変更した。料金体系を変更したことで、結果的に使用料金の増加に繋がったが、今後普及人口については横ばいもしくは減少の傾向にあるため、水洗化率の向上が不可欠である。加入者分担金の支払い完了しているが、農業集落排水に接続していない家庭があるため、その家庭を中心に広報で接続向上を図りたい。なお、令和元年から令和3年にかけて施設の統廃合の検討を行ったが、近年の線状降水帯による局地的大雨の際、地形的に汚水を処理できない可能性があり、一旦計画を中止している。今後は最善な汚水処理手法を検討するとともに、適正な使用料の確保、汚水処理費の削減等により経営の改善を図っていきたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益の収支比率の類似団体平均等を表示していません。